

# 樹医からのアドバイス (Vol.18)

～大がかりなせん定は休眠期に～

出雲市樹医センター

樹医 榎野 浩二郎

大きくなりすぎた庭木や生垣などのせん定は、どの時期が良いか、尋ねられることがあります。大がかりなせん定は、木の中に養分を蓄えている休眠期（11～3月）にすると良いでしょう。

## 【植物の生育サイクル】

一般的な植物は春に芽を出し、葉を広げます。葉を広げるために樹体内の養分を使い果たします。そして広がった葉で春から夏に光合成を活発に行い、栄養を作り出して幹を太らせていきます。秋には越冬するために作った栄養を樹体内に蓄え、水分を少なくして翌年の春の準備をします。

## 【大がかりなせん定の時期】

休眠期には樹体内に養分があり、大がかりなせん定をしても次の芽を出すのに都合が良く、木の中の水分量も少ないのでダメージも少ないでしょう。また、休眠期には腐朽菌も活発ではないため、切り口からの腐れも入りにくいです。

## 【大枝の切断方法】

幹から出ている大枝を切る場合は、できるだけ幹に沿って切ります。枝が少し残ってしまうとカルス（癒合組織）が発達せず、切り口がそのままになり、やがて腐朽してしまいます。切り口はささくれなど無いように、できるだけきれいな断面にして、市販の癒合剤を塗布するとなお良いでしょう。



○ きれいに塞いだ切口



× 腐朽した切口